

# Wri News Letter <sup>No</sup> 78

1979年2月10日 戦争抵抗者インパ-日本部 大阪府河内野田旭町2-12-2(ウリ大阪)

## 確定申告の時期です

わたしたちが

自衛隊を増強させている

去年、関西では初めての軍事費拒否行動から一年がたちました。今年もまた確定申告の時期へ2月16日から3月15日にかけて近づく予定です。去年、申告したあなたも、今年はじめてやってみようと思うあなたも、ぜひやりましょう。

私たちが払っている税金の中から6%近くが自衛隊のために使われています。これは、軍備をもたないという憲法9条に違反するだけでなく「税法」そのものが私たちに憲法違反を強制し、軍事拡大を加担させているのです。

会社づつとめで源泉で税金を天引きされていく人は、この確定申告を利用して、この軍事費介だけ返してくれと申告するのです(還付請求)。その他納付の保留や、意志表示だけなどいろいろやり方があります。これは、反戦、反自衛隊、平和のための、一人一人が行なう非暴力直接行動です。

実際にあなたに加することは、とてもカンタンです。

もしあなたにサラリーマンなら、なおカンタン

会社から「源泉徴収票」をもらってくるだけなんです。

まず何か何でも、10日の「スライド」講演においでください。

(2月27日PM6:30 河内合同集会所で「確定申告拒否勉強会」を行います) 原 俊子

良心的軍事費拒否関西グループ

宇利乃奈加乃乃 河以古登波 喫天尔乃里哉



「ロスモス」月号。これは詩誌ですが向平が「反原発運動」40枚と詩をかいています。定価500円（送料別）です。

# なにかまから

## 原子炉が溶ける……

反原子力のこと、米國などでは、今日常識かと思うのです。

リーダース・ダイジェスト社の世界バストアックス知訳系一巻（一九七八年九月一日）に、ジョン・フラーの「原子炉が溶ける……」という一九六六年のデトロイト郊外、モンリコ・ソルミ原子力発電所の事故の物語が入っています。危くデトロイト全市民が立ち退かなければならなかった事故。原子炉はあぶないということ、米國の有力なジャーナリストが取り上げてゐるのです。また、みずす書房「人間に未来はあるか」（全二巻）には、世界各地の原子力発電所による汚染のため、全世界の汚水が、一がロン以上採取すれば、どこでも放射能をふくんでゐることが書かれています。前記ジョン・フラーの書いた「死の夏」が最近野向宏氏の訳

で出しましたが、それは科学的汚染がかけ合わされると、ものすごく恐ろしい毒となることを告発している。日本の大衆はあまりにも無知です。……（磯沢 T・C）

## 寒行以後

大阪・神戸の皆さん、14・15日は本当にゴクロウ様でした。同じく運動をやっている者同志でお礼をいうのはへんですが、本当に感謝してゐます。

あれ以後、ビラを読んで「こんなおもしろいやり方があったか」という人が多く特に互配の人はとても感激して、中にはビラを何十枚も持ってゆき、まわりの人に配つてくれる人もいます。それだけに金沢の方が全然動けなかった事残念です。もっと効果的にやれたと思ひます。まあ今回だけではなく今後もやりたいので、前の経験を生かしたいと思ひます。（金沢 H）



## シゲキを与える……

「さん」を始めみなさんの働きで意外に反きようが強く、相当なシゲキを与えることができたのは幸いなことでした。労組の活動家？達が現地主義をとってかけついても結局何をしていたかわからないうのが実状です。このあたりにはシゲキを与えることができたらしいのですが。（金沢 K・I）

## やはり……

7号の、七尾火電阻止、表白文および寒行ルポに感動しました。日本山妙法寺のことを思ひうかがたり。一向一揆がいまにあることにおどろいたり。

やはり、こういう記事に折々に接しさせて載くことが必要だと感じました。

## しつくりしつくり

七尾火電の件、私にとってやはり、しつくりしつくりなものがあり

切手のコレクションを自分でやり切れない人は、WR1の方にまわして下さい。カンパのつもりで。おねがい

ます。：念仏を信じていなはものが、いかに手段とはいえ、「信教の自由」という大切なものを信じてない者の方が自ら売りわたしてしまふことになりはしないでしょうか？

「念仏行者らしく」というのも気にいりません。「らしく」ないものが心から念仏を唱えるのでなければ宗教上の意味はないと思ひます。私自身、自分の僧衣姿を運動に利用することがあるから、あまり強いことは言えませんが、「らしく」見せることによつて人々にゆきかけるといふのは、眞の宗教を求めざる者にとつても、宗教そのものを否定するものにとつても、「解放」に逆行するものではないでしょうか？：今、私が目ざす宗教改革の方向では、ただ念仏が題目、お経を唱えるといふのは人間としての解放に逆行するものだと考へてゐるので、黙つてゐるわけにはいきません。また、私は宗教そのものを否定する立場を尊重し、そこから學びたいと思つてゐます

ので、なおさら、それなりの一貫した行動を望みます。宗教を抑圧の体系の一つと考へるなら、その体系を利用した運動といふのは、どこかおかしいのではないのでしょうか？(千葉 Y. H.)

若手の申立て

土田

すぐに手紙で空直な意見をくれたFさんに、ふつうなら、よく考へてみますが、とうのお礼を出すだけだが、ぼくは、七尾の悪行のようなやり方を、もつとすすめる方向で今も考へていき、Fといふ思つてゐるので、什解ではなく若手の申立てをする。

その前にFさんが同題館にとり上げた「念仏行者らしく」という批難。よみらかいか早合衆で、ぼくとしては、その受けとられ方は大へん不本意である。もういちどよみかえしてもらつと、ぼくらは一度も「らしく」ふるまおうとしたのではない。それとみられるこ

とき何より拒もうとして、いろいろ内心の問題があつたのだ。そのことは、いくらぼくの文章がまずくても、讀んでもうそればかり。そのとき、ぼくはぼくそのものとして存在したので、らしくみせかけたものとして決して存在したのではない。

「さマカー、心から念仏を唱えるのでなければ、宗教上の意味はない」という語句に接して、そのときをふりかゝると、心からとがらしく「みど」といふことなど、いふしかぼくの念頭からなくなつていた。そしてふつと我にかへたとき、そのことに氣付いてとてもおどろいた。ぼくは念仏を信じてゐるわけではない。へだかそれほ信じていない。ということにはならないだろ(う)が信ずる信じないなどを越えて、そのとき、これがなみあみだぶなんだなと思つたのである。それは宗教上の意味があるかないかなどの次元では説明で

☆ 直接行動 (四号(冬刊号)) いま 仰見ほど編集ができました。刊行は三月になると思ひます。おくれですみません。

